

和歌山カジノの事業計画否決を歓迎する声明

2022（令和4）年4月20日

全国カジノ賭博場設置反対連絡協議会

代表幹事 新里宏二

和歌山県のカジノ誘致の事業計画について、本日、県議会が反対多数で否決したとの報に接した。これにより、和歌山カジノの今般の認定申請は事実上頓挫した。

19日の特別委員会では、カジノそのものに反対する意見のほか、カジノ誘致に賛成する立場からも事業計画のずさんさや、公費負担の不透明さなどが指摘されていた。これらは、カジノ誘致に反対する各住民団体などから、繰り返し指摘されていた内容である。

和歌山で広く取組まれたカジノ誘致の是非を決めるための住民投票条例制定請求運動は、法定数を大幅に超える署名を集め、議会で否決されたものの、住民の直接の声の重みが議会の雰囲気を変えていったものであり、今般の議会における議決は、こうした地道な取組みがもたらしたものと評価すべきである。

和歌山カジノは誘致活動そのものが終了したわけではなく、今後も誘致そのものの断念を目指す運動が続くことになるが、私たちは、ひとまず、和歌山の住民のみなさんが獲得された画期的な成果に対して、全国の仲間とともに、祝意を表すものである。

今般の認定申請を準備しているのは、大阪と長崎のみとなった。両者の事業計画もずさんであり、公費負担が不透明であることなど、問題点は和歌山と共通するものである。大阪、長崎の議会はそのもてる良識を発揮して、認定申請そのものの撤回を決すべきである。

私たちは、和歌山のたたかいに学び、大阪、長崎で奮闘されている仲間とともに、認定申請の阻止のために、全力を尽くすものである。

以上